



NKSJ

HOLDINGS

株主の皆さまへ

第4期 株主通信

(中間期) 2013年4月1日～2013年9月30日

contents

- 1 … NEWS FLASH
- 3 … トップメッセージ
- 5 … NKSJグループ経営計画
- 7 … 連結財務ハイライト
(NKSJホールディングス)
- 8 … 財務ハイライト
(損保ジャパン、日本興亜損保、NKSJひまわり生命)
- 11 … NKSJグループのCSR
- 13 … 会社概要／役員／株式の状況／
ホームページのご案内
- 14 … 株主メモ

NKSJホールディングス株式会社

証券コード：8630

2013年4月以降のNKSJグループの主な取組みをご紹介します。


2013年 4月 「実質合併」体制スタート


損保ジャパンおよび日本興亜損保は、2014年9月に予定している両社の合併※に先立ち、2013年4月から、役職員の相互兼務等による、一体化運営（「実質合併」体制）をスタートさせました。



2013年 9月 新企業CM放映開始

損保ジャパンおよび日本興亜損保は、2014年9月に予定している両社の合併※を伝える新企業CMとして『ひとつになる』篇を共同で制作しました。CMでは、両社が合併する姿を水滴が重なりひとつになる姿に重ね合わせ、表現しています。

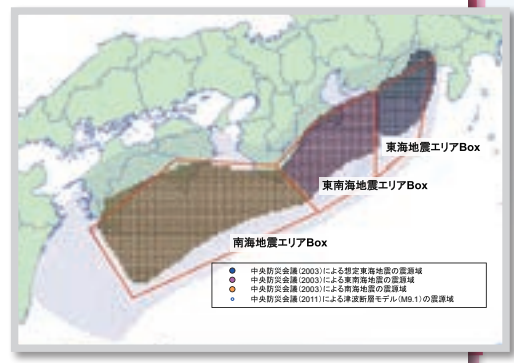




※ 両社の合併は、関係当局の認可等を前提としています。


2013年 6月 南海トラフ地震専用「特定地震危険補償利益保険」「地震デリバティブ」の発売

損保ジャパンは、企業向けに南海トラフ地震専用「特定地震危険補償利益保険」および「地震デリバティブ」の販売を開始しました。南海トラフ巨大地震が発生した場合、企業は建物・設備等に被害を受けるだけでなく、社会インフラやサプライチェーンの崩壊による売上減少に陥る可能性があります。本商品は、地震発生後すみやかに保険金（補償金）をお支払いすることにより、企業が事業を継続するための運転資金を確保します。



2013年 6月 ブラジル・マリチマ社の子会社化

損保ジャパンは、ブラジルの子会社であるYasuda Seguros S.A. (以下「南米安田社」)を通じてMaritima Seguros S.A. (以下「マリチマ社」)の株式を追加取得し、子会社化しました。ブラジルの保険市場は、持続的な経済成長のもとで順調に拡大してきており、今後も継続的な成長が見込まれます。NKSJグループは、マリチマ社・南米安田社のブランド力・販売力を活かした経営を通じて、ブラジルにおける保険事業の一層の拡大を目指します。



2013年 10月 スイス・チューリッヒに新拠点を開設

損保ジャパンは、スイスのチューリッヒに支店を開設し、同時に、再保険引受代理店としてSompco Japan Nipponkoa Reinsurance (Switzerland) AGを設立しました。今後、欧州地域での再保険事業の拡大を図ります。

2013年 10月 「ダイバーシティ推進本部」の設置

損保ジャパンおよび日本興亜損保では、これまで専門部署を設置し、女性活躍推進等に取り組んできましたが、ダイバーシティ推進を加速しグループ成長戦略に結びつけるため、NKSJホールディングスに「ダイバーシティ推進本部」を設置しました。性別・国籍に捉われず、社員一人ひとりの個性を認め合い、グループで展開しているさまざまなサービスに多様な視点を反映させることにより、お客様のニーズに幅広くお応えすることを目指します。


ダイバーシティ推進スローガン [Diversity for Growth]
ダイバーシティを力に変え、お客さまに最高品質のサービスをご提供することが、グループ全体の成長に結びつくという意を含めています。

2013年 10月 「海外インターンシップ in Singapore」の実施

損保ジャパンおよび日本興亜損保は、国内外の大学生を対象に、シンガポール現地法人での就業体験機会を提供する「海外インターンシップ in Singapore」を実施しました。将来の日本を担う若い世代に海外ビジネスの現場を体験してもらうことにより、グローバル人材の育成を支援します。

2013年 5月 「2013年度 オリコン顧客満足度ランキング™ 海外旅行保険部門」で総合第1位を獲得

損保ジャパンは、オリコン株式会社が2013年5月に発表した「2013年度 オリコン顧客満足度ランキング™ 海外旅行保険部門」において、全評価8項目（保険プランのわかりやすさ／充実度、保険加入手続きの容易さ、保険料、保険適用時（初回連絡を含む）の担当者の対応の正確さ・丁寧さ等）のうち7項目で1位を獲得し、「総合第1位」に選ばれました。



2013年 6月 事業継続マネジメントシステム [ISO22301] の認証を取得

日本興亜損保は、お客さまへの保険金のお支払いに関する業務について、「ISO22301」の認証を保険業界で初めて取得しました。「ISO22301」は、地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、新型インフルエンザの感染爆発（パンデミック）など、災害や事故、事件などが現実となった場合に備えて、さまざまな企業や組織が、対策を立案し効率的かつ効果的に対応するための事業継続マネジメントシステムの国際規格です。



損保ジャパン・日本興亜損保の 合併準備は順調 通期の業績予想も上方修正

NKSJホールディングス株式会社
取締役社長 櫻田 謙悟

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2013年度上期におけるわが国経済は、安倍政権による経済政策の効果もあり、景気は緩やかに回復してきました。

このような環境下、当グループでは経営計画の達成に向けた施策を着実に実行しています。その結果、2013年度上期の業績（連結）は、国内損害保険事業、国内生命保険事業がともに順調に拡大したこと、また資産運用益が増加したことなどにより、経常利益が537億円、中間純利益が291億円と、前中間期と比較して大幅に改善しました。この上期の業績には確かな手ごたえを感じており、下期におきましても、引き続き各種施策の効果が見込めることから、通期の業績予想を経常利益1,380億円、当期純利益720億円へと大幅に上方修正しました。

中核の国内損害保険事業におきましては、収入保険料が国内最大となる「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」のスタートまで8か月余りとなりました。損保ジャパンと日本興亜損保は2014年9月の合併に向けて、役職員の相互兼務、共同本社、営業・保険金サービス拠点の同居等による一体化運営（「実質合併」体制）を既に開始しており、着実に準備を進めています。この「実質合併」により、合併シナジーを前倒しに創出し、業界トップレベルの効率性と収益性を実現します。

国内生命保険事業におきましては、保有契約が堅調に増加しました。国内損害保険事業に続く収益の柱として、さらなる「成長の加速」を目指して、魅力ある商品・サービスを提供します。海外保険事業におきましては、損保ジャパン、日本興亜損保両社の拠点の合併・統合が順調に進んでおり、M&A（合併、買収）による事業の拡大戦略をあわせて推進することで、各地域における持続的な成長と確固たるプレゼンスの発揮を図ります。また、金融サービス事業におきましては、収益性に加え、お客さまの安心・安全・健康に資する最高品質のサービスを提供する企業グループを目指し、今後も拡大を図ります。

なお、株主の皆さまへの利益還元としましては、当年度の年間配当を年初予想のとおり一株あたり60円とさせていただきます。具体的には、一株あたり30円の中間配当を実施し、期末配当を30円とする予定です。また、年初の予定どおりに、自社株式の取得を行ったこと（2013年8月～9月に総額83億円）をご報告申し上げます。

今後も、株主の皆さまのご期待に応えるために、当グループは各事業におけるすべての価値判断をお客さまの視点で行い、真のサービス産業として「お客さま評価日本一/No.1」を実現し、世界で伍していくグループを目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年12月

【グループ経営理念】

NKSJグループは、お客さまの視点ですべての価値判断を行い、保険を基盤としてさらに幅広い事業活動を通じ、お客さまの安心・安全に資する最高品質のサービスをご提供し、社会に貢献します。

【グループ行動指針】

お客さまに最高品質のサービスをご提供するために

1. 一人ひとりがグループの代表であるとの自覚のもと、お客さまの声に真摯に耳を傾け、行動することに努めます。
2. 自ら考え、学び、常に高い目標に向かってチャレンジします。
3. 「スピード」と「シンプルでわかりやすく」を重視します。
4. 誠実さと高い倫理観をもって行動します。

【目指す企業グループ像】

真のサービス産業として「お客さま評価日本一/No.1」を実現し、世界で伍していくグループを目指します。

NKSJグループスローガン

First

NKSJグループスローガンを“First”と決めました。

社員一人ひとりがグループの代表であるとの自覚のもと、スピードとチャレンジを大切に、真っ先に一歩を踏み出す姿勢を表現したものです。今後、経営理念等の実現に向け、グループ一丸となって取り組んでいきます。

NKSJグループの経営数値目標である「修正連結利益1,800～2,100億円（修正連結ROE7%以上）」に向けて取り組んでいます。

グループ経営数値目標（修正利益ベース）

| 2015年度（計画） | |
|------------|-----------------|
| 修正連結利益 | 1,800 ～ 2,100億円 |
| 国内損害保険事業 | 700 ～ 800億円 |
| 国内生命保険事業 | 1,000 ～ 1,100億円 |
| 海外保険事業 | 140 ～ 200億円 |
| 金融サービス事業等 | 20 ～ 30億円 |
| 修正連結ROE | 7%以上 |

（注1）消費税増税による影響については反映していません。

（注2）損保ジャパンと日本興亜損保の合併一時コストを、特殊要因として国内損害保険事業の修正利益の計算過程から除外しています。

修正利益の計算方法は以下のとおりです。

| 事業区分 | 修正利益計算上の事業の定義 | 修正利益の計算方法 |
|-----------|---|---|
| 国内損害保険事業 | 損保ジャパン、日本興亜損保（合併後は損保ジャパン日本興亜*）、セゾン自動車火災、そんぽ24の単体の合算 | 当期純利益 + 異常危険準備金繰入額（税引後） + 価格変動準備金繰入額（税引後） - 有価証券の売却損益・評価損（税引後） - 特殊要因 |
| 国内生命保険事業 | NKSJひまわり生命 | 当期EV（エンベディッド・バリュー）増加額 - 増資等資本取引 - 金利等変動影響額 |
| 海外保険事業 | 海外保険子会社 | 財務会計上の当期純利益 |
| 金融サービス事業等 | 損保ジャパンDIY生命、金融サービス事業、ヘルスケア事業など | 財務会計上の当期純利益 |

*両社の合併は関係当局の認可等を前提としています。

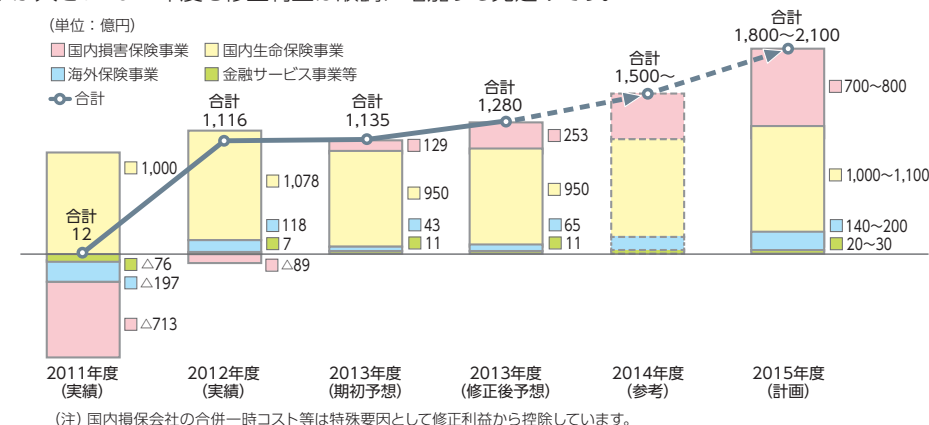
修正連結ROEの計算方法は以下のとおりです。

修正連結利益 ÷ [連結純資産（除く生保子会社純資産）+ 異常危険準備金（税引後）+ 価格変動準備金（税引後）+ 生保子会社EV]

（注）分母は、期首・期末の平均残高

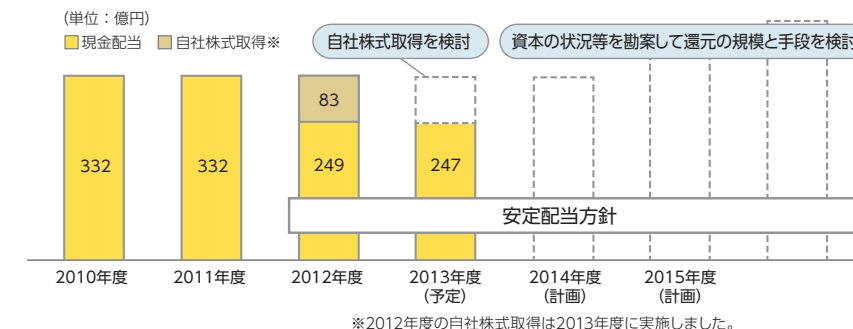
経営計画の進捗状況

- 2013年度の通期業績予想を上方修正しました。経営計画を上回るペースで業績回復が進展しています。
- 合併一時コストが大きい2014年度も修正利益は順調に増加する見込みです。



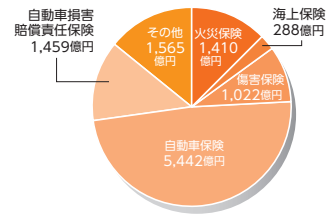
株主還元

- 2013年度は配当247億円（1株当たり60円）を維持し、通期業績予想の上方修正や資本の状況を踏まえ、自社株式の取得を検討していく方針です。
- 2014年度以降は、1株当たり60円の配当は最低限維持したうえで、その時点の資本の状況等を勘案し、自社株式の取得も含めた総還元額を決定します。
- 2013年度より中間配当（1株当たり30円）を実施しました。



| | (単位: 億円) | |
|----------------|---------------|---------------|
| | 2012年度中間期 | 2013年度中間期 |
| 経常収益 | 13,657 | 14,596 |
| 保険引受収益 | 12,867 | 13,550 |
| 正味収入保険料 | 10,386 | 11,189 |
| 生命保険料 | 1,239 | 1,339 |
| 資産運用収益 | 732 | 981 |
| その他経常収益 | 57 | 64 |
| 経常費用 | 14,207 | 14,059 |
| 保険引受費用 | 10,871 | 11,670 |
| 正味支払保険金 | 6,664 | 6,405 |
| 資産運用費用 | 1,145 | 123 |
| 営業費及び一般管理費 | 2,139 | 2,181 |
| その他経常費用 | 51 | 84 |
| 経常利益 (△は損失) | △ 550 | 537 |
| 中間純利益 (△は損失) | △ 373 | 291 |
| 総資産 | 85,674 | 93,944 |
| 純資産 | 8,458 | 13,865 |

正味収入保険料の種目別内訳 (2013年度中間期)



正味収入保険料

自動車保険や火災保険を中心に全種目で増収となったことから、正味収入保険料は、前中間期に比べて803億円増加 (+7.7%) して1兆1,189億円となりました。

経常利益・中間純利益

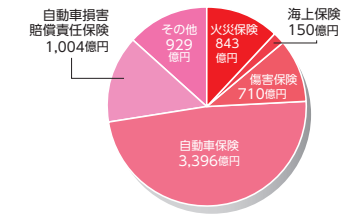
資産運用収益の増加などにより、経常利益は、前中間期に比べて1,087億円増加して537億円の、中間純利益は、前中間期に比べて664億円増加して291億円となりました。

| | (単位: 億円) | |
|----------------------------|--------------|--------------|
| | 2012年度中間期 | 2013年度中間期 |
| 正味収入保険料 | 6,694 | 7,035 |
| (除く自賠責) | 5,736 | 6,030 |
| 正味損害率 | 69.6% | 62.9% |
| (除く自賠責) | 66.1% | 59.2% |
| 正味事業費率 | 33.0% | 31.7% |
| (除く自賠責) | 34.7% | 33.4% |
| コンバインドレシオ | 102.6% | 94.6% |
| (除く自賠責) | 100.8% | 92.6% |
| 保険引受利益 (△は損失) | △ 51 | △ 40 |
| 資産運用粗利益 (△は損失) | △ 283 | 285 |
| 経常利益 (△は損失) | △ 384 | 168 |
| 中間純利益 (△は損失) | △ 235 | 43 |
| 総資産 | 43,405 | 48,055 |
| 純資産 | 4,708 | 7,877 |
| ソルベンシー・マージン比率 (2013年9月30日) | | 710.9% |

格付け (2013年9月30日現在)



正味収入保険料の種目別内訳 (2013年度中間期)

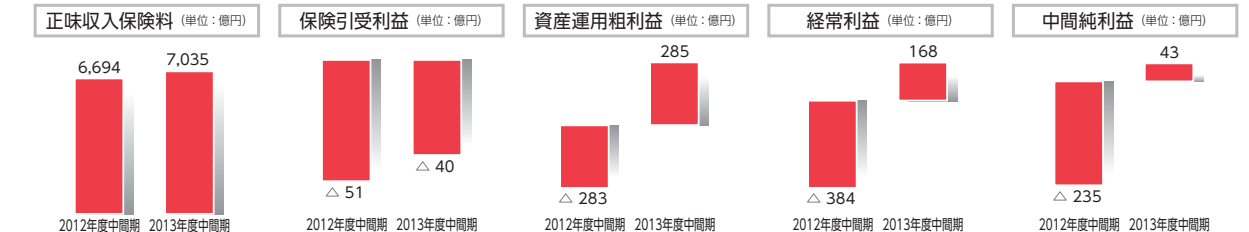
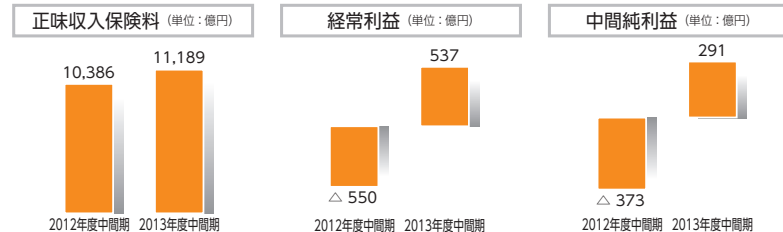


正味収入保険料

商品・料率改定による自動車保険の増収に加え、火災保険、海上保険も好調に推移するなど全種目で増収となったことから、前中間期に比べて340億円増加 (+5.1%) して7,035億円となりました。

経常利益・中間純利益

資産運用粗利益の大幅な増加を受けて、経常利益は前中間期に比べて553億円増加して168億円、中間純利益は前中間期に比べて279億円増加して43億円となりました。



日本興亜損保 (単体)

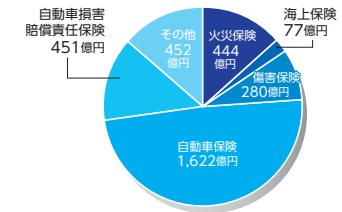
| | 2012年度中間期 | 2013年度中間期 |
|----------------------------|-----------|-----------|
| 正味収入保険料 | 3,225 | 3,328 |
| (除く自賠責) | 2,794 | 2,876 |
| 正味損害率 | 74.7% | 66.1% |
| (除く自賠責) | 72.2% | 63.0% |
| 正味事業費率 | 34.4% | 34.2% |
| (除く自賠責) | 36.6% | 36.5% |
| コンバインドレシオ | 109.2% | 100.3% |
| (除く自賠責) | 108.8% | 99.5% |
| 保険引受利益 (△は損失) | 97 | △ 26 |
| 資産運用粗利益 | 175 | 280 |
| 経常利益 | 261 | 249 |
| 中間純利益 | 180 | 155 |
| 総資産 | 22,089 | 22,696 |
| 純資産 | 3,066 | 4,685 |
| ソルベンシー・マージン比率 (2013年9月30日) | | 652.9% |

格付け (2013年9月30日現在)

Standard & Poor's
【保険財務力格付け】 **A+**

格付投資情報センター (R&I)
【発行体格付け】 **AA-**

正味収入保険料の種目別内訳 (2013年度中間期)



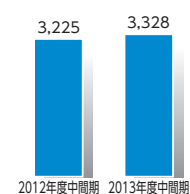
正味収入保険料

火災保険、海上保険、その他が好調に推移するなど全種目で増収となったことから、前中間期に比べて102億円増加 (+3.2%) して3,328億円となりました。

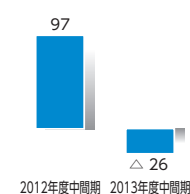
経常利益・中間純利益

資産運用粗利益は大幅に増加しましたが、保険引受利益が124億円減少したことから、経常利益は前中間期に比べて12億円減少して249億円、中間純利益は前中間期に比べて25億円減少して155億円となりました。

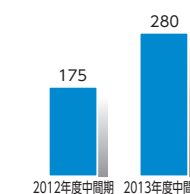
正味収入保険料 (単位: 億円)



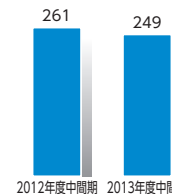
保険引受利益 (単位: 億円)



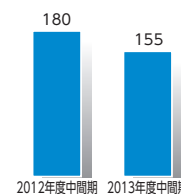
資産運用粗利益 (単位: 億円)



経常利益 (単位: 億円)



中間純利益 (単位: 億円)



NKSJひまわり生命 (単体)



| | 2012年度中間期 | 2013年度中間期 |
|--------------------------------|-----------|-----------|
| 保有契約高 | 182,715 | 196,816 |
| 新契約高 | 13,870 | 12,939 |
| 保有契約年換算保険料 | 2,907 | 3,043 |
| 新契約年換算保険料 | 172 | 150 |
| 保険料等収入 | 1,779 | 1,824 |
| 保険金等支払金 | 844 | 833 |
| 基礎利益 | 51 | 74 |
| 経常利益 | 44 | 73 |
| 中間純利益 | 13 | 33 |
| 総資産 | 18,764 | 20,350 |
| 純資産 | 808 | 933 |
| ソルベンシー・マージン比率 (2013年9月30日) | | 1,518.7% |
| エンベディッド・バリュー (EV) (2013年3月31日) | | 6,748 |

格付け (2013年9月30日現在)

Standard & Poor's
【保険財務力格付け】 **A+**

格付投資情報センター (R&I)
【保険金支払能力格付け】 **AA-**

※保有契約高・新契約高・保有契約年換算保険料・新契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。

保険料等収入

医療保険「健康のお守り」、収入保障保険「家族のお守り」、終身保険「一生のお守り」を中心に保有が増加し、保険料等収入は前中間期に比べて45億円増加 (+2.5%) して1,824億円となりました。

経常利益・中間純利益

保険料等収入が増加したことに加え、保険金・給付金の支払状況が良好であったことから、経常利益は前中間期に比べて28億円増加して73億円、中間純利益は前中間期に比べて19億円増加して33億円となりました。

用語解説

ソルベンシー・マージン比率とは?

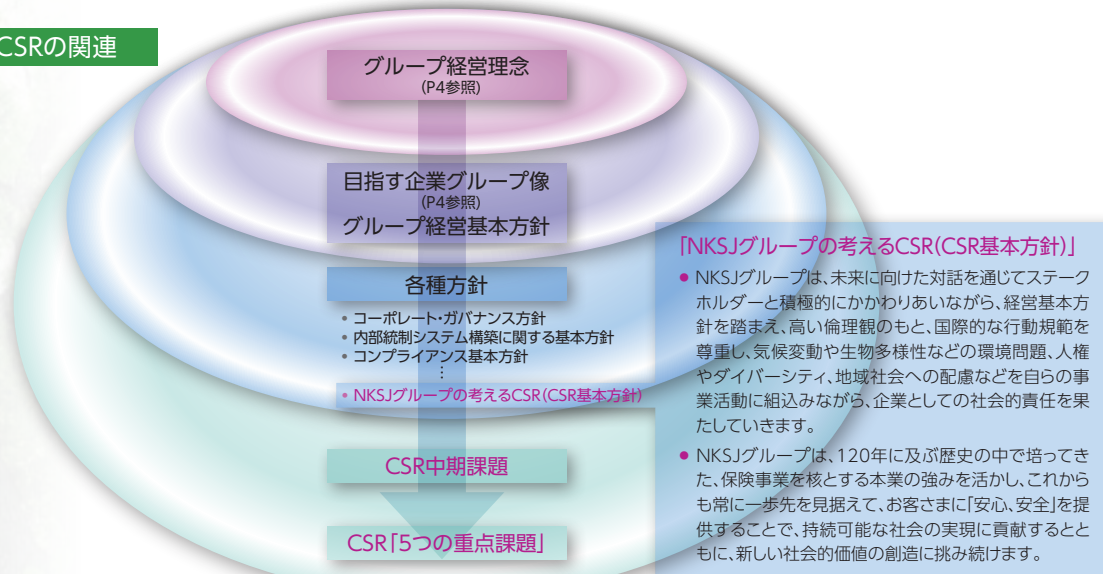
保険会社の健全性を見るうえで重要な指標のひとつで、予測できない大災害が発生した場合に、保険金を支払う能力があるかどうかを判断する数値です。一般的に200%以上なら保険金支払能力は問題ないとされています。

エンベディッド・バリュー (EV) とは?

生命保険会社の価値・業績を評価する指標のひとつ。「企業の純資産価値」と「保有契約からもたらされる将来利益の現在価値」を合計したもので、生命保険会社の損益計算書等の会計情報を補完する指標となるものです。欧州やカナダなどでよく用いられています。当社でも、エンベディッド・バリューを経営管理上重要な「社内評価指標」と位置づけています。

NKSJグループはグループ経営理念に「幅広い事業活動を通じ社会に貢献すること」を掲げています。経営理念の実現に向け、CSRを経営戦略の中心に置き「NKSJグループの考えるCSR (CSR基本方針)」を定め、その実現に向けた具体的な取組課題であるCSR「5つの重点課題」を特定し、企業としての社会的責任を果たすべく取組を進めています。

経営戦略とCSRの関連



CSR「5つの重点課題」

1 「安心・安全」の提供

2 気候変動をはじめとする地球環境問題への対応

3 金融機能を活かした社会的課題の解決

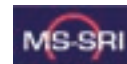
4 NPOなどとの協働を通じた持続可能な社会づくりへの貢献

5 人材育成とダイバーシティ推進による強い組織づくり

CSRに対する評価 ～国内外のSRIインデックス (社会的責任投資指数) などへの組入れ～

2013年9月、世界の代表的なSRIインデックスである「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス (DJSI)」のDJSI World およびDJSI Asia Pacific の組入銘柄に選定されました。このSRIインデックスは、企業のサステナビリティ (持続可能性) を「経済・環境・社会」の側面から評価し、持続的な成長が期待される銘柄として選定するものです。DJSI World への組入れは、損保ジャパンから通算すると14年連続となります。

その他、右記のSRIインデックスやSRIファンドの組入候補銘柄となっています。(2013年9月末時点)



東日本大震災 継続的な復興支援の取組み

NKSJグループでは、震災発生以降、変化する現地ニーズに合わせて継続的に復興支援に取り組んでいます。

社員派遣プログラム ～福島県南相馬市で復興に取り組む団体のサポート役として社員9名を派遣～

損保ジャパンと日本興亜損保は、継続的な復興支援と社員の人材力向上を目的に、復興に取り組む団体のサポート役として、社員を業務派遣するプログラムを実施しています。7月から10月にかけて、2週間4クール、延べ9名を一般社団法人福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会*に派遣しました。社員は、企業人として培ってきたスキルを活かし、NPOの品質向上や業務範囲の拡大支援に取り組ましました。

*津波被災地 (市有地) を活用し、太陽光発電所と植物工場を舞台とした体験学習を通して、子どもたちの成長を支援し、全国の人々との交流を行う団体。



南相馬ソーラー・アグリパーク



現地で活動する社員の様子

損保ジャパン笑顔届け隊! ～岩手県釜石市での4回目の人形劇公演～

2013年8月、損保ジャパン名古屋ビルにある「ひまわりホール」、NPO愛知人形劇センターの協力のもと、岩手県釜石市の集会所や幼稚園など4会場で人形劇スマイルキャラバンを開催し、子どもたちや保護者の皆さまを中心に約170名に参加いただきました。この度の公演は、2012年から4回目の開催となります。



釜石市立第一幼稚園での公演の様子

みんなのひまわりプロジェクト ～子どもたちの笑顔を広げ、地域を元気にする取組み～

NKSJひまわり生命は、笑顔の象徴としてひまわりをテーマに「みんなのひまわりプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトでは、特設ウェブサイトを開設し、幼稚園でひまわりを育てる観察日よりを紹介したり、夏には全国各地から、ひまわりの様子の投稿も募っています。また、6、9月には宮城県宮城郡七ヶ浜町の幼稚園でのひまわりの苗植えや収穫に社員も参加し、子どもたちから元気をもらいました。



子どもたちと社員による苗植えの様子 (宮城県宮城郡七ヶ浜町)



気候変動をはじめとする地球環境問題への対応

業界初「カーボン・ニュートラル」を達成 ～CO2排出量の削減を目指す取組み～

NKSJグループは、グループ全体でCO2排出量の中長期目標を定め、削減に努めています。日本興亜損保では、2012年度の事業活動全般で排出されたCO2を全量オフセットし、カーボン・ニュートラルを達成しました。カーボン・ニュートラルとは、排出権を購入するなどしてCO2排出量を埋め合わせる (ゼロにする) 行為です。通勤や物流も含めた企業活動全般に伴うCO2排出量を包括的にニュートラル化するのは業界初の取組みです。

SAVE JAPANプロジェクト ～自動車保険を通じ、47都道府県で自然環境や希少生物を守る取組み～

損保ジャパンと日本興亜損保では、主力商品である自動車保険において、環境に配慮したWeb型約款等を推進するとともに、100を超えるNPO・環境団体とともに全国で環境保全活動を実施しています。プロジェクトを開始した2011年4月から累計すると、15,000名以上の市民の皆さまにご参加いただきました。また、お客さまにWeb型約款等を選択いただくことで、1,300t以上の紙使用量の削減につながっています。(2013年9月末時点)



「城山自然学校」 (岩手県紫波町)



「歩いて、生きたサンゴを見よう!」 (沖縄県恩納村)

■ 会社概要 (2013年9月30日現在)

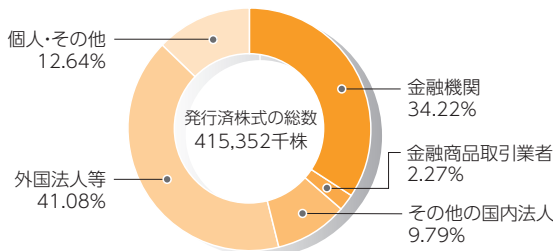
会社名 …… NKSJホールディングス株式会社
 (英文表記: NKSJ Holdings, Inc.)
 本店所在地 …… 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号
 設立日 …… 平成22年4月1日
 資本金 …… 1,000億円
 従業員数 …… 35,932名 (連結)
 事業内容 …… 損害保険会社、生命保険会社その他の
 保険業法の規定により子会社等とし
 た会社の経営管理およびこれに附帯す
 る業務

■ 役員 (2013年9月30日現在)

| | |
|--------------|------------|
| 代表取締役会長兼執行役員 | 二宮 雅也 |
| 代表取締役社長兼執行役員 | 櫻田 謙悟 |
| 取締役専務執行役員 | 辻 伸治 |
| 取締役常務執行役員 | 高田 俊之 |
| 取締役執行役員 | 山口 雄一 |
| 取締役執行役員 | 西澤 敬二 |
| 取締役執行役員 | 江原 茂 |
| 取締役執行役員 | 竹本 尚一 |
| 取締役 | 熊野御堂 厚 |
| 取締役(社外取締役) | 川端 和治 |
| 取締役(社外取締役) | ジョージ・オルコット |
| 取締役(社外取締役) | 野原 佐和子 |
| 執行役員 | 徳岡 宏行 |
| 常勤監査役 | 湯目 和史 |
| 常勤監査役 | 吉満 英一 |
| 監査役(社外監査役) | 西川 元啓 |
| 監査役(社外監査役) | 椿 慎美 |
| 監査役(社外監査役) | 笠 間 治雄 |

■ 株式の状況 (2013年9月30日現在)

発行可能株式総数 …… 1,200,000,000 株
 発行済株式の総数 …… 415,352,294 株
 株主数 …… 49,640 名
 所有者別株式分布状況



■ ホームページのご案内

ホームページを通じて、個人投資家の皆さまにNKSJホールディングスをより良くご理解いただくための情報をお届けしています。



<http://www.nksj-hd.com/>

中間配当の支払開始日 …… 平成25年12月10日 (第4期中間配当は1株につき30円です。)

中間配当の基準日 …… 9月30日

事業年度 …… 毎年4月1日から翌年3月31日まで

期末配当および議決権の基準日 …… 3月31日

単元株式数 …… 100株

公告の方法 …… 電子公告により行います。(http://www.nksj-hd.com/)ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

上場証券取引所 …… 東京証券取引所 (市場第一部)

株主名簿管理人 …… 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社
 平成25年12月10日(火曜日)から、株主名簿管理人を、「三菱UFJ信託銀行株式会社」から「みずほ信託銀行株式会社」に変更いたしました。

郵便物送付先および各種お問い合わせ先 …… 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話: 0120-288-324 (フリーダイヤル)

特別口座の口座管理機関 …… みずほ信託銀行株式会社および三菱UFJ信託銀行株式会社
 ※お問い合わせ先等につきましては、裏表紙をご覧ください。

■ 株式に関する各種手続き

- 受取がお済みでない配当金のお受け取り、支払明細等の発行についてのお問い合わせは、株主名簿管理人へご連絡ください。なお、配当金のお支払期間は支払開始から3年間となっておりますので、お早目にご請求ください。
- 住所変更、配当金受領方法の指定および単元未満株式の買取・買増などの各種手続きについては、証券会社等に口座をお持ちの株主さまはお取引のある証券会社等へお問い合わせください。なお、証券会社等に口座がなく、特別口座で管理されている株主さまは、裏表紙「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。

■ 単元未満株式の買取・買増制度のご案内

単元未満株式については、買取制度または買増制度をご利用いただくことができます。

● 単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。

具体例 50株をお持ちの株主さま



● 単元未満株式の買増制度を利用

単元未満株式を当社から市場価格で買い増して、単元株式とする制度です。

具体例 50株をお持ちの株主さま



■ 特別口座の口座管理機関

特別口座に記録されている株式は「単元未満株式の買取・買増」を除いて売買ができませんので、お早めに証券会社に株主さまご本人名義の口座を開設していただき、当該口座へ振替手続きを実施していただきますようお願いいたします。

詳細につきましては、以下表の「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。

| | [旧 損保ジャパンの株主さま] | [旧 日本興亜損保の株主さま] |
|--------------------------|--|--|
| 特別口座の口座管理機関 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 郵便物送付先 および お問い合わせ先 | 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-288-324 (通話料無料) | 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (通話料無料) |

NKSJホールディングス株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号
TEL. 03-3349-3000 (代表)



この株主通信は環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。